

自由研究発表

頭をつかむ
—破るための規則をつくる—

Grasp a Head

How to Make a Rule so as to Breach It

中川敏 (大阪大学名誉教授)

Satoshi Nakagawa (Emeritus Professor, Osaka University)

前回、前々回の発表で私は東インドネシア、フローレス島のエンデの人々の母方交叉イトコ婚の規則について、とりわけそれがいかに守られないかについて語った。その現象の背後にある考え方を、私は折口信夫にならって「あきかえし」の原理と呼んだ。それは負債とは関係を生むものであるという、あるいはより正確には負債がなくなるとは関係がなくなる、という考え方である。母方交叉イトコ婚とは、言わば、前の世代の関係を清算する規則である。その規則に従わないことは、負債を継続すること、すなわち関係を継続することなのだ。今回扱うのは（前回同様に）結婚にまつわる贈与交換である。婚資交換は嫁を与える者（嫁の集団）（以降 WG と書く）と嫁を受け取る者（婿の集団）（WT）との間だけで行われるのではない。WT と WG の間の交換は、婚資が社会全体を流れる大きな流れの一点に過ぎないのだ。WT は婚資を準備するために自らの WT たちから婚資を集める。このための集會をボウ（「集ること」）と呼ぶ。呼ばれた WT は自分の財産だけで足りなければ、彼自身の WT から（小さなボウをつうじて）婚資を集める。というわけで基本的にはボウには、ホストの WT だけが集まる。ところが稀ではあるが WG、それも最も重要な WG がボウに参加することがある。ボウに参加する WG がホストに渡す贈与を「頭をつかまえる」と呼ぶ。今回の発表は、この例外的な贈与の意味を探ることを目標とする。結論だけを述べれば、その贈与は「前の世代になかった負債を、あたかもあったかの如くにするため」の贈与なのだ。かくして破るべき規則が生まれることとなるのだ。